報道資料

2025 年 8 月 4 日

（公財）流通経済研究所、備蓄米の消費者評価に関する調査を実施

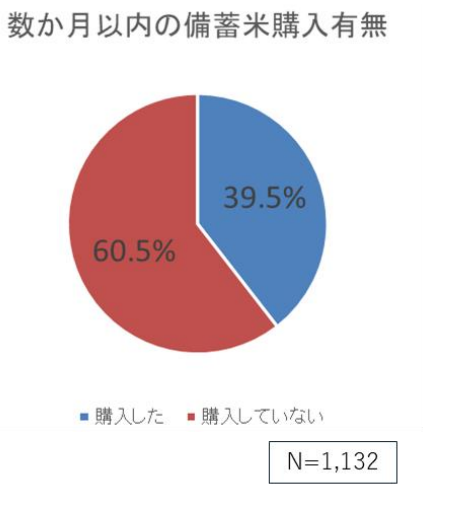
食味にこだわるユーザーで銘柄米を選択する割合は 30％以上
備蓄米の味の評価が低い場合、銘柄米やブレンド米にシフト！？

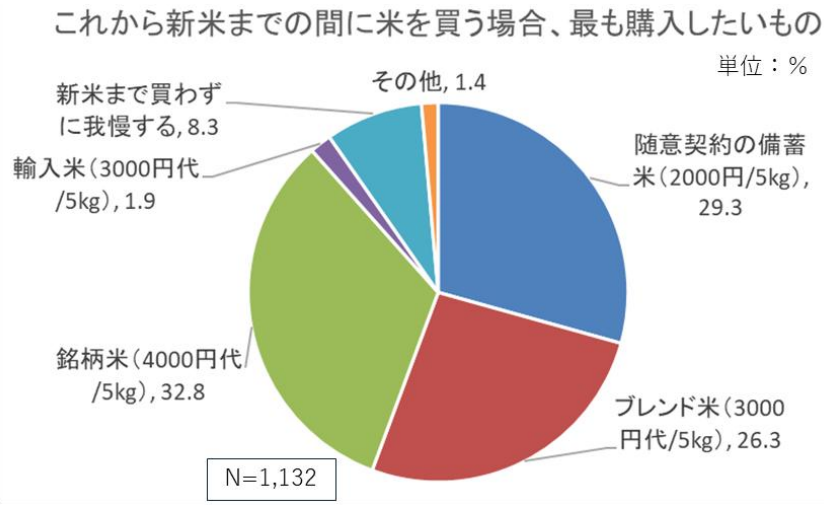
公益財団法人流通経済研究所（本社：東京都千代田区、理事長：加藤弘貴、以下流通経済研究所）は、2025 年 8 月 1 日～2 日で、備蓄米に関する消費者調査（WEB アンケート調査）を実施した。調査結果について、主席研究員　折笠俊輔のコメント付きで報告します。

調査概要　調査日：2025 年 8 月 1～2 日　手法：WEB 調査（ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ社のパネル対象）
調査対象者：1 都三県＋大阪府・京都府・兵庫県＋愛知県＋福岡県のパネル
米を週に 1 回以上食べる、米を半年に 1 度以上購入する、を条件に 6000 名以上をスクリーニング
最終回答者は 1,132 名（男性 352 名・平均年齢 46.7 歳、女性 780 名・平均年齢 50.4 歳）

■ 調査結果

【コメにこだわりのあり、銘柄米を選択する消費者は 30％以上存在する】





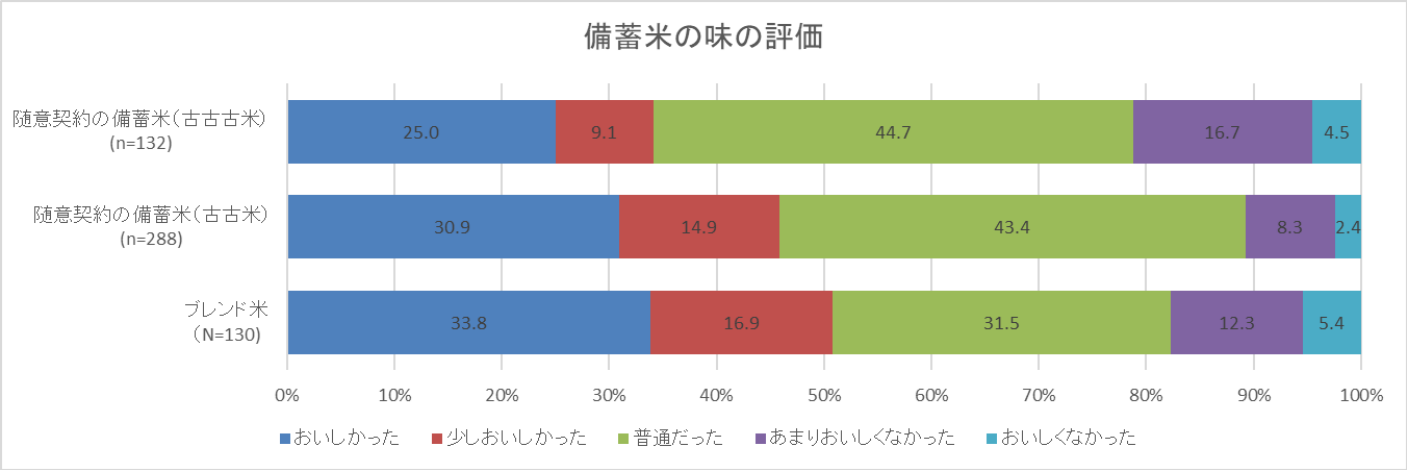
（折笠解説）回答者のうち、備蓄米購入経験のある消費者は約 40%。大都市を対象にしたため、買えていない消費者も存在すると考えられるが、それほど多くは無いと考えられる。消費者全体のうち、これから新米までの間に米を買う場合に、最も購入したいものとして 32%以上の消費者が銘柄米と回答した。農水省のコメの価格の統計においても銘柄米の割合が 40%程度で横ばい推移しているが、30～40％程度、価格は高くても銘柄米を選択する消費者が存在していることが分かる。

＜新米までに購入したい米とその理由（N=1,132）＞

	随意契約の備蓄米（２０００円/５kg）	ブレンド米（３０００円代/５kg）	銘柄米（４０００円代/５kg）	輸入米（３０００円代/５kg）	新米まで買わずに我慢する	その他
価格が安いほうが良いから	79.5%	26.5%	3.2%	33.3%	23.4%	18.8%
価格と味のバランスが良いから	33.4%	64.8%	15.9%	42.9%	17.0%	31.3%
やはり味が良い方が良いから	6.3%	22.1%	78.2%	14.3%	48.9%	37.5%
好きな銘柄や産地が決まっているから	3.3%	2.0%	22.9%	23.8%	16.0%	25.0%
お米のプロからおススメされるから	1.5%	0.3%	1.3%	0.0%	11.7%	6.3%
その他	1.2%	0.7%	1.6%	0.0%	2.1%	37.5%

（折笠解説）価格にこだわる消費者は随意契約の備蓄米、価格と味のバランスを重視する消費者はブレンド米、味にこだわる消費者は銘柄米を支持する傾向にある。

【備蓄米の味の評価は、古いほど低い傾向にある】



（折笠解説）古古米と古古古米を比較すると、おいしかった、少しおいしかったの回答率は古古米の方が大きく、おいしくなかった、あまりおいしくなかったの回答率は古古古米の方が大きかった。古い方がコメの食味が低下している可能性がある。また、ブレンド米については、おいしかった側の評価が、随意契約の備蓄米よりも高い一方で、おいしくなかったの評価は古古米よりも低い。これは、おそらくブレンド米の個別のブレンド内容に左右されている可能性がある。

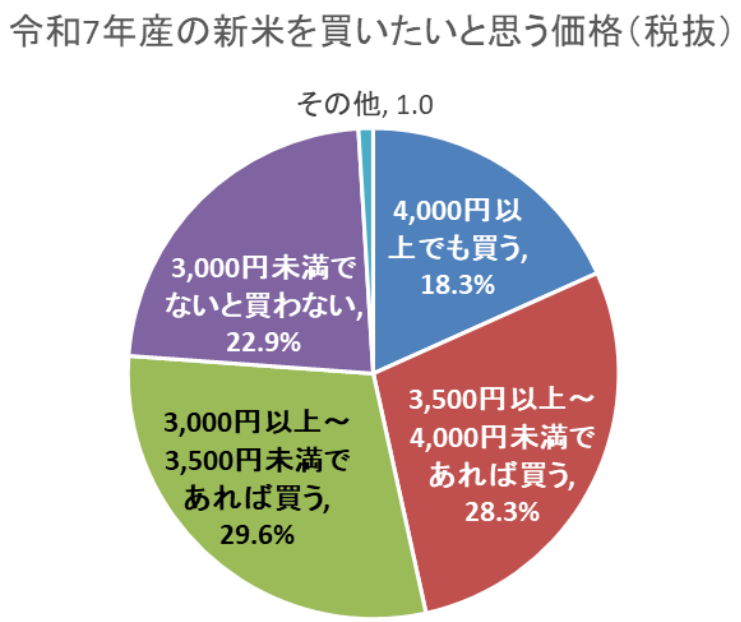
【備蓄米の味の評価が低い場合、ブレンド米や銘柄米にシフトする割合が大きい】

＜備蓄米の味の評価別　新米までの間に米を買う場合に最も購入したい米＞

新米までの間に購入したい米の種類	プラス評価（N=158）	普通（N=182）	マイナス評価（N=53）
随意契約の備蓄米（２０００円/５kg）	74.1%	64.3%	26.4%
ブレンド米（３０００円代/５kg）	17.7%	22.0%	28.3%
銘柄米（４０００円代/５kg）	6.3%	6.0%	28.3%
輸入米（３０００円代/５kg）	1.9%	0.0%	5.7%
新米まで買わずに我慢する	0.0%	7.1%	11.3%
その他	0.0%	0.5%	0.0%

（折笠解説）備蓄米購入者のうち、おいしかった、少しおいしかったの回答者＝プラス評価、普通＝普通、おいしくなかった、あまりおいしくなかったの回答者＝マイナス評価として、それぞれの評価ごとの新米までの間に米を買う場合に最も購入したい米を集計した。マイナス評価の場合、ブレンド米や銘柄米へのシフトが見られる。なお、備蓄米は産地品種銘柄が不明であるため、消費者の食味の好みと、米の特性などの組合せで、味の評価が変わることがある（産地や品種を選べない＆不明であるがゆえ）。

【新米に 3000 円以上出しても買いたい消費者は 75%以上】



N=1,132

（折笠解説）約半数の消費者が 3,500 円以上でも新米を購入したいと回答している。新米への期待の高さがうかがえる。

■米の農水省統計の推移を読み解く

農水省のコメの小売価格の統計において、価格の下がり幅が小さくなっている、あるいは微増した要因は、今回の調査結果から、以下であると考えられる。

✓ 食味にこだわりのある消費者は、あえて銘柄米を購入しており、その消費者が 30～40%程度存在しているため、備蓄米の割合が伸びないため。

✓ 備蓄米を購入した消費者のうち、食味に満足できない一部の人々が銘柄米に回帰したため

■ 本件についてのお問い合わせ

公益財団法人流通経済研究所　主席研究員　折笠俊輔（おりかさ　しゅんすけ）
TEL　03-5213-4534　／ MAIL： Shunsuke_orikasa@dei.or.jp